

事業成果報告書

1. 教育委員会名 : 能勢町教育委員会
2. 研究主題 : [調査研究 I]魅力ある学校統合事例の創出
※事業計画書「3. 研究主題」と同じ
3. 研究タイトル : 次代の能勢を担うグローバル人材の育成
～「自分がすき!」「仲間とともに!」「能勢がすき!」「夢がいっぱい」の子どもの育成をめざして～
※事業計画書「4. 研究タイトル」と同じ
4. 研究課題 : 【調査研究 I】
ア. 統合後の学校が新たな学区の地域コミュニティの核として高い教育機能を発揮するための方策に関する研究
①保護者と児童生徒と地域との関係をしっかりとつないでいくこと
②地域のことを学び、地域の行事等に参加しながら、地域の一員であることを自覚させること
③地域の願いに応える学校運営をすること
エ. 統合を契機とした魅力的な学校づくりに関する先進的な取組の研究
①能勢町スタンダードの授業を小中全教職員共通認識の上、実践する
②学習方略の研究をし、一人ひとりの学び方を支援する。(アフタースクールの小学校自主学习教室、中学校自立学習室につなぐ)
③ICTを活用した魅力ある授業を展開する

※事業計画書「5. 研究課題」と同じ
※必要に応じて、適宜、行を追加すること。

5. 事業の実績

(1) 調査研究のねらい

本町は、平成28年4月に140年以上の歴史のあった6小学校2中学校を再編整備し、施設一体型小中学校「能勢ささゆり学園」を開校した。それに伴い各地域にあった「地域の重要な拠点」の一つであった学校を閉校したため、地域と学校のつながりが希薄になるなど、再編整備をする上でこれまで培い、養ってきた「地域の教育力」の低下・衰退が危惧された。そのような状況を踏まえ本調査の研究のねらいを「次代の能勢を担うグローバル人材の育成」と定め、そのねらいに沿って、学校・家庭・行政が互いに支え合い町ぐるみで子どもたちをどう育てていくかについて研究を進めた。

※要点をまとめ、簡潔に記載すること。

(2) 調査研究の実施状況(平成29年度)

4月	
5月	
6月	運営委員会・推進会議の開催 「秋田県由利本荘市、東成瀬村」の視察研修 能勢中学校授業研究会① 能勢小学校グローバル能勢授業①(三草山)
7月	運営委員会・推進会議の開催 能勢小学校授業研究会① 能勢小学校授業研究会② 中高合同授業①(アクティブラーニング授業)
8月	思考力育成研修会 能勢小学校グローバル能勢②(人形浄瑠璃～能勢三番叟～)
9月	能勢小学校授業研究会③ 日本授業UD学会全国大会(筑波大学附属小学校)へ参加 運営委員会・推進会議の開催 ケース会議 能勢小学校グローバル能勢③(人形浄瑠璃体験)
10月	子ども理解研修会 思考ツールを活用した授業づくり研修会 能勢小学校グローバル能勢④⑤(人形浄瑠璃体験) 運営委員会・推進会議の開催 ケース会議
11月	能勢小学校授業研究会④ 能勢小学校授業研究会⑤ 能勢中学校授業研究会② 子ども理解・授業づくり研修会 運営委員会・推進会議の開催 能勢小学校・能勢中学校学校訪問【文部科学省】 ケース会議
12月	能勢小学校授業研究会⑥ 中高合同授業②(アクティブラーニング授業) ケース会議
1月	ケース会議
2月	能勢地域小中高一貫教育連携型中高一貫教育研究発表会 能勢中学校授業研究会③ 思考ツールを活用した社会の授業づくり研修会 ケース会議
3月	

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。

※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。

※本事業から経費を支出した事項(会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など)については、必ず記載すること。

6. 事業の成果

(1) 研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

ア. 統合後の学校が新たな学区の地域コミュニティの核として高い教育機能を発揮するための方策に関する研究

①について

・課題先進地能勢町の次代について熟議をする機会を生徒、保護者、地域の人々とともに考える（ディープアクティブラーニングの実施）

昨年度の報告会において、「学校においても取り組むべき内容だ」と今後の展開につながる発言があったことや、事業1年目の取組として、小中高一貫教育研究発表会において、中高の教員が連携しアクティブラーニング授業を提案したことが今年度の取組につながった。

今年度は、7月・12月に町内にある府立の高等学校の生徒と能勢中学校1年生の生徒を対象にアクティブラーニング合同授業を行った。授業の際には外部講師を招き、助言をいただいた。またその助言を基に、2月の小中高一貫教育研究発表会の公開授業に向けて6回の部会を開催し、指導案検討や授業の改善を図った。3回実施したため、校内においてアクティブラーニング授業の取組がより広がり、実践の深まりにつながった。研究発表会では校種間連携を活かし、中高生が共に学び合い課題を解決していく授業は、意義深い提案となり、公開授業後の検討会では活発な討議がなされた。

②について

・地域の方々に協力を得て（学校支援地域本部を活用）グローバル能勢（能勢のふるさと学習）の授業を展開する

・すべての教職員が旧小学校区に所属し、児童生徒・保護者とともに地域の様々な活動に参加する

グローバル能勢（ふるさと学習）の授業の取組が積み上がるよう、4月の小中高一貫教育の総会において、グローバル能勢に重点を置き、講話及びグループ協議を行った。その際には、今年のビジョンを「能勢をもっと深く知り、保護者・地域の人とつながりながら、子どもたちが、自分や家族や地域の人たちと関わり合い、豊かに生きていけるよう、各教科・領域で能勢に関連づけた内容の授業等を展開する。」と示し、講話後には、各教科ごとに準備された能勢のデータ資料等から、能勢と子どもたちをつなぐ授業展開についてグループ協議を行った。

また年間を通じて、能勢と子どもたちをつなぐ授業実践を記録し冊子にまとめた。さらに小中高一貫教育研究発表会に向けて4回の部会を開催し、当日は小中高よりそれぞれ授業を公開した。今年度12年間の中で能勢の地域に根差しながら、知り・触れ・出会い・感じる能勢を意識した授業実践が積み上がった。

旧小学校区と連携する担当教員は、旧校区において開催される地域の行事に児童生徒が積極的に参加するよう呼びかける等、学校と地域のパイプ役となり連携を図った。

③について

・学校支援地域本部事業を活用して、地域の方々の力を学校に活かし、チームとしての学校をめざす

・学校運営に関し、学校に参画していただく方々の意見を取り入れ、コミュニティスクールをめざす

学校支援地域本部事業を活用し、地域の方々を積極的に学校へ招き、豊かな教育実践を積み上げた。ふるさと能勢に対する理解と愛情を育み、能勢の良さを継承し、地域社会から国際社会に生きる人として、持続可能な社会の形成者として必要な資質の基礎を養うための取組が積み上がった。小学校において、1年生：「遊びたい！～のせの草花遊び・昔遊び」2年生：「のせをたんけん！～学校のまわりやしぜん～3年：「～能勢の「お宝」を見つけよう！～」4年：「守りたい能勢～わたしたちの願いとくらし～」5年：「産業の人々の工夫～ものづくり能勢～」6年：「ゆたかなあゆみと平和な世の中～能勢の歴史～」以上各学年テーマを柱に取組を進めた。再編整備後も、学校と地域のつながりを授業の軸にし連携することで、チームとしての学校づくりをめざした。

また平成30年度、コミュニティ・スクール導入に向け、教員を対象に研修会、地域の方を対象に説明会を実施し、学校・保護者・地域がパートナーとなって協働し、能勢町の子どもたちの健やかな成長のために地区や校種を越えて育てていくための基盤をつくり、教育の魅力化につなげた。さらに、SCやSSWを積極的に活用し、定期的にケース会議や個別の相談会を実施し、児童生徒の不登校や問題行動等の生活指導面への対応や、未然防止の取組に対し専門的な指導助言を受け、適切な支援することができ、その積み上げが支援体制の構築へとつながった。

エ. 統合を契機とした魅力的な学校づくりに関する先進的な取組に関する研究

①について・・・研究授業を積極的に実施する

- ・小中全教職員で実施する能勢町授業スタンダードに基づく研究授業を年3回実施する
- ・様々なメンバー（学年別・教科別等）による研究授業を3年間で1人1回は実施する
- ・効率的な学習方法を提示し、意欲的に学習に向き合えるよう、児童生徒を支援する

小中高一貫教育を進めるにあたって今年度学力向上部会を新たに設置し、小中高を貫くテーマを「思考力・判断力・表現力を高める学習活動」とし、授業スタンダードを基盤にした授業実践に取り組んだ。

小学校において、研究テーマを「確かな学力の向上を図る学習指導の工夫・改善」授業スタンダードの徹底による算数科授業改善～思考力・判断力・表現力を高める授業づくりのあり方を探る～とし、全ての学年において事前・事後研を含む授業研究を行い、より研究が深まるよう事後研には年間通して同じ外部講師を招き、授業力向上につなげた。また中学校においても、研究テーマを「思考力・表現力の育成」～生徒自身が考え、表現できる力をどのように身につけるか～とし、事前研を含む研究授業を年3回実施し、テーマに沿った内容で校内研修も実施し、教科を越えて研究協議を重ね、授業力向上につなげた。

今年度は、府外研修として日本授業UD学会全国大会(筑波大学附属小学校)へ小中合わせて4名の教員、秋田県由利本荘市・東成瀬村へ小中合わせて5名の教員を対象に視察研修を実施した。研修では、児童生徒が主体的・意欲的に学習に取り組む実践について具体的に学ぶことができた。視察後には、自校の実践につなげるための手立てを整理した上で明確に報告書に示し、日々の教育活動につなげた。視察研修では参加した教員から、自己の教育活動につなげようと積極的に質問する等、意識の高まりが見られた。それは、昨年度の視察研修の報告会及び日々の環境が影響していると考え。小中学校全体として、授業力の向上の取組が広まり浸透していると捉えている。

②について・・・学習方略を研究しながら、授業にもその手法を活用する

- ・家庭学習の手引きを改善充実する
- ・タブレット型パソコン等の活用方法について研究する

家庭学習の手引きについては、児童生徒に配付し取組を進めているが、全国学力・学習状況調査における質問紙において、中学校においては改善傾向が見られたが、小学校においては課題が残る結果となった。秋田県由利本荘市・東成瀬村視察研修において、手引きだけでなく児童生徒の学習意欲につながる具体的な取組について学んだ。今後、学んだことを軸にそれぞれの学校の実態に応じて、学ぶ姿勢の育成をめざす取組を進める必要がある。また、児童生徒の生活背景を見据えた上で授業のあり方について認識を深め、厚みのある取組につながるよう貧困と学力をテーマにした研修会を2回に渡り実施した。

教員1人に1台タブレット型のパソコンを配置して2年経つ。教員は日常的にICTを活用している。経験の浅い教員を対象にした研究授業においてICTの効果的な活用について研究協議する等、ただ活用するではなく、どう活用するかという視点で授業を構成する意識が広がっている。来年度も初任者の研究授業において、ICTの効果的な活用を軸にした授業研究を進めたい。

③について・・・全員学びでの活用方法について研究する

- ・グループ学びでの活用方法について研究する
- ・一人ひとりの学びでの活用方法について研究する

今年度小中高一貫教育を進めるにあたって、学力向上部会・グローバル能勢部会・グローバル英語部会・キャリア教育部会を置き、全体を包括するテーマを「グローバル人材の育成～地域事象から出発し、世界的な視野で考え、地域課題解決に挑むことができる人材～」とし研究を進めた。各部会において2月の研究発表会に向けて、指導案検討・ICTの効果的な活用等、授業について協議を重ねそれぞれの部会から公開授業を行った。この一連の取組は、小中高12年間のつながりを意識した魅力ある授業づくりへとつながった。

※必要に応じて、適宜、表を追加・削除すること。

(2) 成果物等

- ・大阪府能勢地域における小中高一貫教育の取組
- ・学習指導案集
- ・秋田由利本荘市・東成瀬村の視察研修報告書
- ・日本授業UD学会全国大会研修報告書
- ・子ども理解研修会コミュニケーションカード
- ・子ども理解・授業づくり研修会コミュニケーションカード
- ・グローバル能勢部会資料
- ・グローバル能勢(古典講読年間計画案集)

(3) 今後の取組予定

「次代を担うグローバル人材の育成～自分が好き!」「仲間とともに!」「夢いっぱい」の子どもの育成をめざして～を研究のタイトルとして進めてきて3年目を迎える。これまでの研究が、より豊かなものとなり、持続可能な仕組みとして位置づくことを意識し研究を進める。また全ての取組において主体的な姿勢で取り組めるよう、組織の在り方、研修の時期等協議した上で進めていく。12年間を見通し、子どもたちの学びを確実につなぎ、地域とともに歩む魅力ある学校をめざしさらに取組を推進していく。

※要点をまとめ、簡潔に記載すること。